

皆川市長の旧町村政策に注目 自立分散型まちづくりで、地域の個性を

皆川治市長の2期目の政策が5日発表され、その中で旧町村の政策が注目されます。地域まちづくり未来基金と、小規模修繕を更に使いやすく充実し、各地域の個性を活かした自立分散型まちづくりを明確にしています。平成大合併で前榎本

市長のもとで中央集権が進みましたが、皆川市長は地域に予算と権限を移譲してきました。

渡前地区の防災等多目的施設の整備

具体的な施策では、藤島中学校を含む文厚エリア、栄・渡前等

の防災等多目的施設の整備

○手向地区のまちなみ景観形成、泉地区地域活動センターと羽黒コミセンの対応

○鶴岡南高校山添高閉校後の活用方策、櫛引生涯学習センターの耐震補強整備

○過疎対策の司令塔へ朝日庁舎改築、湯殿山スキー場のリフト再建かたくり温泉ぼんぼの活性化支援、
○鼠ヶ関IC道の駅整備、温海バラ園の整備などが注目されます。

榎本市政下では「改築しない」と答弁

渡前地区の老朽化した体育館は、地元住民の要請で皆川市長が現地を視察し、9月議会です小野由夫議員（市民ク）が取り上げました。

前榎本市長のもとでは、加藤鉦一議員の「藤島川西側の避難所が課題」との質問に、「市街地と公共施設の設置がアンバランスで、収容人数が少なくても改築は考えていない」（H28年6月議会）と答弁していました。

皆川市長が次期政策に明記。市長再選を果たし実現させましょう。

藤沢周平を読む⑥

鈴木重雄（八色木）

周平は、一人前の教師になる道を歩き始めた。

そうなるとう文学青年などという道と決別し、同人雑誌に詩を発表することもなくなった。

しかし、小説は読んでいたし、授業や部活動の中では、「奥の手」を出すこともあった。

たとえば研究授業の中で寸劇を使ったり、こどもたちを総動員して、西洋の童話を脚色して自作の「白鷺」という放送劇を、校内放送で流したりした。

これが好評を博した。しかし、周平のねらいは別のところにあつて、普段教科書の音読も出来ないような生徒に、セリフを与えたり、放送劇のBGMの係をやらせると、見違えるように生き生きとしてくるところに着目したのであった。

万事好調に滑り出したかに見えた2年目の終わりの春に、思いがけなく肺結核を発症し、3年目になるはずの新学期から休職して治療に励むことになった。

長い不運な生活の流れの始まりだった。休職の手続きを済ませると、すぐに鶴岡市内の中目医院に入院した。

中目医院は呼吸器疾患で信用が高い病院である。

病状は、拡大したレントゲン写真で確認したところによると、右肺上葉にはつきりとした。



1950（昭和30）年3月、湯田川中学校のころ。前列左から2番目が周平。た病巣がひとつ、左肺に小さなカゲが二、二カ所あるというもので、むろん右肺のものが主病巣だった。

しかし、それは空洞化しておらず、また病気は非開放性だったので、急いで入院する必要はなかったのかもしれないが、早く病気を治して職場に帰りたいだったので、さっさと入院したのである。

治療は、寝ていて栄養のあるものを食べ、週一回気胸療法を行っただけだった。

これだけの療法と休養で、病状は著しく好转し、8月の終わりに退院して良いと言われた。

その後は家で休養しながら、気胸療法をやり、中目医院に通うのである。

前途はすこぶる明るく、病院から解放され、四季のうちで最も快い村の秋を満喫したのだった。

ところがその頃、周平の家には思いがけない災厄が覆い被さってきていたのである。

支援、高齢者等移動手段・除雪支援の充実、地域医療提供体制の抜本的改革推進

未来基金で地域を応援 過疎対策の司令塔へ朝日庁舎改築

地域まちづくり未来基金、小規模修繕を更に使いやすく充実。鶴岡・藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海、各地域の個性を活かした自立分散型のまちづくり。

新給食センター、新図書館構想 更なる市民参画まちづくり

第3中学区体育施設に第2コミセン併設、藤島中学校を含む文厚エリア、栄・渡前等の防災等多目的施設、旧鶴岡病院・鶴岡南高校山添高の活用（市民プール、人工芝サッカー場等）などまちづくり構想の検討・推進。

コロナ禍・市長給与3割カット継続

新文化会館論争に終止符を打つ1期目の市長公約を踏まえ、給与44%カット（平成31年1月～）中。市長給与3割カットを継続し、コロナ苦境の市民・事業者の皆様に寄り添い前進！

ださい。また、事務所にて配布しておりますので、お尋ねください。

4

5

皆川おさむ「討議資料」から

農協の「あらゆる政策を総動員した」対策求める請願

自民会派は政府に付度、勝手に解釈

J A庄内たがわとJ A鶴岡から、9月議会に「米の需給調整に関する意見書の提出を求める請願」が出され、21日の本会議で全員賛成で採択されました。

米価下落で甚大

請願は、コロナ禍で米の在庫が増加し、3年産米の米価下落により甚大な影響が懸念されるとして、「政府備蓄米の運用改善等あらゆる政策を総動員した需給対策の実施」などを求めています。

紹介議員は阿部寛議員（新政ク）と、加賀山茂議員（市民ク）の2人です。

自民会派は、政府見解が大前提

13日の議会産業建設常任委員会の請願審査では、本間信一議員（新政ク）が「あらゆる政策を総動員」の具体的な内容について質問。紹介議員の阿部寛議員が、「収入保険加入や輸出、機械の導入、主食用米や米粉など非主食用米の消費拡大など」と答弁しました。

石塚慶議員（新政ク）は、「政府の見解は、価格維持や需給調整のために備蓄米の買い上げはしないことが大前提で、それは入っていないと確認してよいか」と質問。

阿部寛議員は、「政府が買い上げて価格を維持するというのは、3年前に終わった。政府の情報に基づいて生産調整を自らやっていた」と答弁しました。

コロナ禍の災害だ

請願は「あらゆる政

策を総動員」と求めているのに、「過剰米の処理」を勝手に省いて解釈しています。

長谷川剛議員（共産）は、「ミニマムアクセス米の中止と、備蓄米の買い上げはどうか」と質問。

阿部寛議員は、「農協はその問題に触れていなかった」と述べました。

米価暴落はコロナ禍による災害であり、農家の責任ではなく政治の責任です。

過剰米を政府が買い上げ、コロナ禍の食料支援に回すべきです。

ひとつ

須藤克三②

3つの「せい」と結びつく

青山 崇

須藤先生は山形新聞社の非常勤嘱託として残り、社説、文化欄を担当しつつ、青年、女性、農村等の運動を指導しつつ、童話などの児童文学を育てていく。その端緒が『やまびこ学校』と無着成恭である。少し触れておこう。

1947年4月、山形師範学校3年であった無着が教えを乞いたいと、山形新聞社編集室の須藤を訪れたことが交流の始まりである。

そして無着が編集委員を務める師範学校創立70周年記念文芸誌『明窓』の編纂には、須藤に編集責任者に就任してもらい、原稿の整理の仕方、編集の技術さらには印刷や製本技法などの術を貪欲に吸収した。

この経験がのちに無着が発行する学級文集『きかんしゃ』に大いに活かされたという。それをまとめた『山

びこ学校』は1951年発行、1953年には上映され、大きな反響をよんだ。

その頃、私は学生として日教組全国教研集会に参加し、『山びこ学校』に関わることを「ブーズー弁」で話した。これが受けて分科会は大いに盛り上がった。

一方、県内の農業高校に就職して数年経った頃、県内の青年団から講師を依頼されるようになった。青年は夜変わる」と自認し、

夜明けまで飲んで語った。

ここでセツルメント運動の経験が役立つ。さらに須藤先生から学んでいた、青年の生き方として3つの「せい」と結びつくことである。

3つの「せい」とは、一つ生活・生産、2つ「政治」、3つ「性」である。これは、男女の平等と共同ということである。この3つを、時の社会情勢や話題を交えながら、大きく結ぶのである。



反自民の人が

総理大臣が持っているという解散権を、振ることが出来ない残り期間になってしまい、任期期限を超えて総選挙は11月になってしま

う模様だ。菅首相は、次の総裁選に出ない事に。その理由がフルっている。コロナ対策に専念するからだと言。これまで専念しないから今の混乱なんだぜ。

▲菅首相になってから、彼らは大きな選挙で4連敗している。一番近い所では、菅首相の地元である横浜市長選挙で彼らは負けたんだが、現市政に反対する側が統一して戦ったから勝ったんだ。その流れから市民の呼びかけで野党間の話し合いが行われ、総選挙を戦う野党

共通政策が発表された。▲これを見れば、国民民主党が入れない訳が分からないんだが。アベ・菅と続いた9年間

のブザマな政治を転換する絶好の機会だという声が増しに大きくなっていくのに、流れから外れるのは自公に味方したいのかナ。でも県内では、中央とは別に舟山さんが…。

▲政権交代がかかる総選挙の前に、鶴岡市長選・市議選がある。先々週の数日間、国民民主党だという宣伝カーの声が出たが、藤島地域の名前も出ていた。それは、舟山さんも芳賀さんも皆さんから上げてもらったんだから市議も頼むよ・の意。▲しかしこの方、国民民主党と言っても、今回の市長選では自民が推す候補を支援するんだと。4年前の市長選では、皆川さんを推したんだが。

▲この間の皆川市政の何処が悪かったのか。前回彼を推した方々は聞くべきじゃありませんか。今回も皆川さんに投票したい人は特にです。(石川)



それをまとめた『山